

大空に翔る

平成17年3月発行
No.21

発行
(財)山形県体育協会
山形県スポーツ少年団
山形市松山2-11-30
☎(023)625-5750
印刷 (株)大風印刷

日常の活動風景



大石田JSC、大石田柔道、大石田キンダースポ少の活動(村山支部)

日独同時交流受入 合気道体験(最上支部)



第26回全国スポーツ少年団ホッケー交流大会に参加した
小松ホッケースポーツ少年団(置賜支部)

松山野球スポーツ少年団(庄内支部)

最後に、世の中厳しくなっておりますが、子ども達の未来の為に関係者が知恵を出し合い、一層のご指導、ご協力を申し上げます、ご挨拶といたします。

過ぎてみれば早いもので、あっという間の一年でした。平成十六年度の本県スポーツ少年団事業も、略、終了し、総括反省の時期になっております。いつもご尽力下さいますみなさまに、心からお礼申し上げます。

ところで、決して明るい社会とはいえない昨今ですが、スポーツの世界は明るさ一杯の一年でした。日本選手の大活躍がありました、アテネオリンピックを初めとし、各種大会の選手達の頑張りは、沢山の生きる喜びをいただきました。また、楽天イーグルス等々、日常会話に事欠かない年でもあったと思います。まして、これ等の選手のほとんどが、スポーツ少年団の出身者と聞いております。これからも一層の夢と希望を持って充実した活動に励む事でしょう。しかし、スポーツ少年団の活動目的は、優秀な選手育成だけではなく、人づくりにあります。明るく元気に生きて、地域社会に貢献の出来る人材になつてもらわなければなりません。指導者のみなさん、どうぞこの事にご配慮の上、ご指導をお願い致します。



いあいさし

山形県スポーツ少年団
本部長 原田 薫



特集

第44回全国スポーツ少年大会に向けて

○全国スポーツ少年大会とは…

スポーツ少年団活動をより一層促進し、地域における活動の活性化を図るため、全国都道府県代表リーダーと指導者の参加を得て開催される研修および交流交歓大会です。昭和三十八年、静岡県御殿場市国立中央青年の家を会場に第一回大会が開催され、今年で第四二回目を迎えました。

本県においても、これまで多くの指導者、リーダーが参加した歴史ある大会です。

大会は、国民体育大会開催県が所属するブロックの持ち回りとし、当該ブロック内都道府県においてその前年度に開催することとなっているため、平成十八年度山形県において開催されることが予定されています。



SHIPSスポーツ活動 9人10脚走



SHIPS活動の賞状と作成した旗

大会プログラムは、以下の活動が組み込まれ、参加者が全活動に参加することになっています。

- ・スポーツ活動（SHIPS活動含む）
- ・文化活動
- ・交流交歓活動
- ・野外活動

SHIPSスポーツ活動とは、走る、跳ぶ、投げるといった基礎的な運動能力をみることがができるスポーツ活動や、単一競技大会では味わえない各種ニュースポーツ、または独自のルール・方法で行うことのできる創作スポーツなどを盛り込んだ活動のことです。

▼大会プログラム▲

現在、山形県では二年後の開催を控え、準備委員会を設置し、標語の募集や山形の特徴を生かしたプログラムの

検討など、本県スポーツ少年団あがての準備を進めています。

第42回全国スポーツ少年大会 日程表

	第1日 8月4日(水)	第2日 8月5日(木)	第3日 8月6日(金)	第4日 8月7日(土)
5:30				
7:10			朝のつどい	
7:20		朝のつどい 美化活動		朝のつどい 美化活動
8:00			社会活動 (広島市原爆死没者慰霊式 並びに平和祈念式)	
9:00			(ちよいとボランティア)	文化学習活動 (思いをつづる)
9:30				
10:00		スポーツ・SHIPS活動 (We Love Sports.フェスタ)	野外活動 (Peaceハイキング =平和記念公園～宇品港南 番ポイントラリー)	
10:20				表彰式 閉会式
10:45				
11:00				
12:00				
13:30				
15:00		スポーツ・SHIPS活動 (We Love Sports.フェスタ)	広島港宇品集合・発	
15:30	開会式		江田島青年の家着	
16:30	レクリエーション活動 (出会いのアカペラ ブロックコンクール) オリエンテーション			
17:00		夕べのつどい	美化活動	
17:30			夕べのつどい	
19:00			交歓交流活動 (感動&感謝の夕べ)	
19:00	文化学習活動 (We Love Sports. フェスタミーティング) (夢・感動フラッグ コンテスト)	文化学習活動 (平和首飾を学ぶ) (飛揚させよう!) (新)鶴2004 (感謝便りをふるさとへ)		
20:00				
21:00				

アテネオリンピック

今年はおリンピック発祥の地アテネでオリンピックが開催され、本県スポーツ少年団出身の大神雄子選手（女子バスケットボール：うめばちミニバスケットボールクラブスポーツ少年団出身）、高橋みゆき選手（女子バレーボール：山形東小バレーボールスポーツ少年団出身）の二名が日本代表選手として出場し、ご活躍されました。

両選手のより一層の活躍と二人に続く選手が近い将来育つことを本県スポーツ少年団関係者一同期待しているところであります。



大神雄子選手



高橋みゆき選手

全国スポーツ少年団大会を

視察して

鶴岡城北スポーツ少年団

平賀 振一郎



「平和記念都市 広島」で開催された今年度の全国スポーツ少年団大会を視察し、まずは広島県の役員の方々の努力と本県の参加団員の活躍に敬意を表します。

今回の視察で感じたことは、まず、実行委員会の組織がとてもしっかりとできていること、リーダー会を最大限に生かしながら運営していることとです。「暑い」の一言につきる四日間でしたが、リーダーたちは自分の役割を自覚し、てきぱきと活動していると感じました。

また、スポーツ活動の他に、平和記念式典への参加という貴重な体験ができました。このことは、団員たちが平和というものを肌で感じるとてもよい機会となり、「広島らしさ」を十分に感じ取ることができたと思います。

さて、二年後には鶴岡市を中心に本県で大会が開催されます。約四〇〇人という大人数を迎えて活動できる施設や設備の確保をはじめ、大会運営に重要な役割を果たすリーダー会の育成、また、「山形（庄内）らしさ」を感じさせる活動内容の検討等、早急に取り組むべきことも多いと思います。参加者の思い出に残る全国大会にならないように、県をあげて取り組んでいかなくてはならないと思います。

全国スポーツ少年団大会に

参加して

陽光卓球スポーツ少年団

上野 和義

私は陽光卓球スポーツ少年団の指導者としておりますが、まだ経験が浅く、指導者として大会に参加してほしいと声がかかったとき不安はありましたが、以前この大会に団員として参加したときに、とても楽しかった思い出がありましたので、その楽しかったことを伝えることができたいと思い、また指導者として学ぶために参加しました。

この大会は、全国各地から参加するため、他の都道府県の仲間と交流し多くの友達が出来るというのが魅力であり楽しみの一つです。参加団員たちは他都道府県の仲間と交流し、友達を作っていました。

SHIPSスポーツ活動は、都道府県対抗の競技で、私達は九人十脚走で全国二位、総合では九位となりました。みんな協力し合いがんばりました。大会三日目は八月六日とのことで、広島平和祈念式に出席しました。一度でいいので出席したいと思っていたので、私を含め団員たちは、非常に貴重な体験をすることが出来たと思います。

今回参加させていただき、改めてスポーツ少年団はスポーツをはじめ、文化や交流等が体験でき、心と体を育むことが出来る素晴らしいスポーツクラブだと思いました。この大会で得たものを活かして伝えていきたいと思えます。

第四十二回全国スポーツ少年団大会

報告レポート

稲穂サッカースポーツ少年団

伊藤 良紘

今回の全国スポーツ少年団大会には、高校三年生、最年長者としての自覚と積極性を強く持つ事を自分の課題とし広島に向かいました。日程を通し、その事を特に意識して行動したのは、二日目の「スポーツ・SHIPS活動」と三日目の「社会活動」（平和祈念式参加）でした。スポーツ活動では、小学生から高校生までのチームをどこまで一つにまとめる事が出来るかでの活動（順位）が決まると考えていました。高校生と指導者の方の経験と小中学生の行動力とがうまく融合し、九人十脚走では全国二位、総合でもベスト10に入る健闘を見せました。

また、三日目の「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」に参列させていただいた事は、原子爆弾がもたらす恐怖、悲しみ、痛みを戦争未経験の年代にとつて、大変貴重な体験となりました。その後、資料館も見学しました。そこには被爆者の遺品、惨状を示す写真や資料、そして核時代の状況を紹介していました。そして、平和記念公園から宇品港までのポイントラリーでは平和都市広島を自分の身体を全て使い、全てで感じながら歩く事が出来ました。平和な世の中でスポーツが出来る事が当たり前と感じていた自分にとって、平和がどれだけ尊い物かと考えさせられる一日でした。

最後に、この大会に参加させてくれた指導者と両親に、様々な面でサポートして下さった県、市の職員の方々に感謝したいと思います。この経験が今後の活動と自分の成長の肥やしになってくれると思います。

一、子どもを取巻く生活環境等の 変化とスポーツ少年団への期待

近年、子どもを取巻く社会・生活環境が変化し、通塾等による「忙しい子ども」の出現、遊ぶ空間は学校だけ、遊び仲間の小規模化・地域での遊び仲間の欠如など、子どもの健全な成長に必要な「時間」・「空間」・「仲間」の三つの「間」が失われているとの警鐘がある。

また、子どもの体力・運動能力は昭和六十年頃から低下傾向が続き、体力の低下は身体面だけでなく、子どもの豊かな人間性や自ら学び自ら考えらるといった「生きる力」の育成にも影響し、社会全体にとって看過できない問題になっている。

学習コーナー

子どもたちを育む豊かなスポーツ環境づくりと スポーツ少年団への期待



県教育庁スポーツ保健課課長補佐 鈴木 剛 一

これらの課題解決に向け、「スポーツを通じた人間形成」「スポーツの生活化」等を理念とするスポーツ少年団活動への期待は大きく、学校完全週五日制に伴う子ども地域活動の受け皿づくりとも相俟って、一層期待感が高まっている。

二、子どもたちを地域で育む豊かなスポーツ環境づくり

本県のスポーツ少年団活動は、育成に関わる関係者の並々ならぬ努力により、小学生の加入率が全国二位であるなど、全国に冠たる活動実績があり、これまで本県スポーツ振興の基礎づくりとして多大な貢献をしてきている。しかし、全国をみた場合、本県の小学生には定期的な運動部活動が設置されていないことや、地域のスポーツ環境整備として推進している総合型地域スポーツクラブの育成が、本県ではまだ緒に就いた段階であることなどを考えると、県スポーツ少年団には「子どもたちを育む豊かなスポーツ環境づくり」の中核として、地域のより公益的なスポーツ環境として、新たな視点に立った組織づくりや活動の見直しを多に期待したい。

三、子どもに期待される能力と指導者の在り方

二十一世紀の社会は、これまでになく変化の激しい社会であり、生涯にわたって学び続けていく能力、いわゆる生涯学習と自己教育力、主体性の育成が大切になっている。文化としてのスポーツを實踐し、健康で活力ある生活を維持していくため、スポーツでいえる「生涯スポーツ実践能力の育成」が大切になっている。スポーツ少年団活動も、このことを念頭に置いた指導が求められている。

生涯スポーツ実践者の共通の特徴として、運動やスポーツの「楽しさ」を存分に経験していることがあげられる。ここでいう「楽しさ」とは、「集う楽しさ、動く楽しさ、伸びる楽しさ、わか

「総合型地域スポーツクラブ」づくり

「子どもは受動的で、しかも有能な学び手でない。」というイメージから「子どもは能動的、かつ有能な学び手である。」とする指導観の転換、子どもが自ら主体的に活動する次元の高い内発的動機づけを大切にしたい指導としたい。

四、スポーツ少年団の更なる発展と

「総合型地域スポーツクラブ」づくり
「二十一世紀にはばたくために」
(平成十五年三月(財)日本体育協会日本スポーツ少年団)より

スポーツ少年団活動はこれまで、①単一種目中心の単位団活動、②多くが小規模、③生涯・競技スポーツの基礎育成、④育成母集団の活動参加奨励、⑤小学校期中心の自己完結的發展等が特徴となつてきている。これはスポーツ少年団がより発展していくために見方を変えれば、それぞれ①多様多型への抵抗感、②自主運営力の限界、③指導の過熱と子どもの困り込み、④一部保護者の意識の過熱、⑤他組織・団体との連携・協調不足等でスポーツ振興にとって、「陰」となる可能性が指摘されている。提言にある「スポーツ少年団がこれらの問題を解決していく過程は、まさにスポーツ少年団が『総合型地域スポーツクラブ』づくりの中心となり、スポーツ少年団組織の逐次的な拡充方針を展開していくことに通じる」ことを理解したい。青少年層(特に小学生)を視野に入れた「総合型地域スポーツクラブ」づくりは、スポーツ少年団以外に核となりえる組織はなく、今後の取り組みを大いに期待したい。

「市町村の動き」

●白鷹町

白鷹町は、健康と福祉の町づくりを標ぼうしている。平成十四年に町民憲章を柱とした町づくりアメリニコンクールで全国最優秀賞を受賞した。スポーツ少年団としても、「究極の福祉は元気で丈夫な子どもを育てることだ」とのことばを重く受けとめ、健全な青少年育成をめざし、スポーツの好きな子どもを育てることの重要性を強調している。

今年度は、指導者二〇〇名、高校生とリーダーを含め六八〇名、推進事項に、事故防止、広報活動、関係団体との連携をあげ、団員の努力目標としてともだちを大切に、オアシス運動とゴミの持ち帰り運動に取り組んでいる。去る九月に学校、体育協会、体育指導委員会の代表者で体力及び総合型地域スポーツクラブの内容を話題にして研修のための懇談会を開催した。

今後の課題は、指導者の身分と研修環境教育、野外活動、ボランティア活動、団加入率の更なる向上をめざすこと、また、子どもたちの活動がマンネリ化せず喜んで参加でき、地域ぐるみで育て、一人ひとりのゆとりとなり、未来の力になるよう願っている。



ボランティア活動 白鷹スキー場での花植え

団員の夢



寒河江空手道
スポーツ少年団
古城 慶太

スポーツ少年団への思い

ぼくが、スポーツ少年団に入るきっかけになったのは、母に勧められて通うようになった、寒河江空手道スポーツ少年団との出会いでした。最初の頃は、同じ学年の子はいなくて、同じ学校から通う子も少なく、友達と呼べるような人もいませんでした。練習にも慣れていないせいもあって、辛いと感じる時期が長くあったように思います。でも、今まで続けてこれたことを考えてみると、確かに母や家族の助言もありましたが、スポーツを通して同じ気持ちになれる仲間がだんだんと出来てきて、その多くの仲間と辛さや楽しさを共有できたからだと思います。

学校も学年も違うけれど、同じ道と一緒に進める大切な仲間に出会ったから今の自分があるのだと、改めて感じています。来年の春になれば、中学校に進み、新しい環境で新しい友達もたくさんできるかもしれませんが、スポーツでできた大切な仲間をいつまでも大事にしていきたいです。

そして、いつかぼくも大人になったら、こんな仲間づくりができる場であるスポーツ少年団にかかわりをもっていったらと思います。



新庄地区
柔剣道錬成会
中村慎乃輔

ぼくの理想のチーム

ぼくは、新庄地区柔剣道錬成会で剣道をやっている六年生です。

ぼくの理想のチームは、ふだんの生活から、返事や礼儀が正しくできるチームです。試合場に行ったら、一番早く防具を付けて、一番大きな声を出して試合にのぞむことです。日ごろの練習の時から気を付けていかなければ、このことはできないと思います。そして、このことを、くり返しくり返し練習していくことで、必ずこのチームからも負けない錬成会になると思います。ぜひたいにぼくたち六年生が卒業するまでに、この理想のチームにしたいと思っています。

また、先生方に教えてもらったことを素直に聞き入れて、チームの一人ひとりが練習に打ち込めばいいと思います。

ぼくの大好きな錬成会だから、けいこも十分打ち込めるし、先生方にもたくさん教えてもらって、かんしゃしています。

ぼくは、もう少しで卒業だけれども残り少ない卒業までの剣道の練習をいっしょようけんめい、最後の日までがんばりたいと思います。



亀岡バレーボール
スポーツ少年団
近野 加奈

バレー県大会予選

八月一日その日は、私のはいつている亀岡バレーボールの県大会への最後のキップをとるチャンスがある予選の日でもあり、蔵王のクロスカントリーと駅伝の日でもありました。

私はどちらにも出るかまよいましたが、高島町でせつかく選ばれたので駅伝に出てみることにしました。

いよいよ本番の日が来ました。私は、駅伝の第四区を走りました。

走っているとき、学校の先生や家族が応援に来ていました。他にも、知らない人たちからユニホームに高島と書いてあったので、「高島カンバレー」「ほら、おいこせー」など応援してもらいました。おかげで前にいた人を二、三人おいこしてアンカーの人にしたすきをわたすことができ、結局高島は四〇くらいのチームがあるうちの二〇位でした。去年は二七位だったので、二〇位と聞いたときはとてもうれしかったです。

そして、もう一つ私のところにうれしいれんらくが届きました。それは、バレーボールが県大会のキップをとったというものでした。

県大会では一回戦で負けてしまったけど、とてもいいけいけんができました。これからは、バレーにせんねんしたいです。



一條小女子ミニ
バスケットボール
スポーツ少年団
三船由香子

母みたいに

私の母は看護師です。私がいつもけがをすると、ていねいに手当をしてくれます。私は、そんな母にあこがれ、将来の夢は、看護師になることです。

以前、母が看護師になるために一生けん命勉強した本を読んでみて、わからないものがあつたときは、母に教えてもらっています。

でも、心配なことがあります。それは人の死です。母は、病院で多数の人の死を見てきました。もし、私が看護師になつても人の死を見てたえられるでしょうか。きつとたえられなくて「やめた」そう思うと思います。でも、私は、苦しんでいる人を助けたい思いが強いので、絶対看護師になりたいと思います。

私の母から病院のことを聞くと、特に手術が大変だそうです。私は見ているのがいやだからかなと思いましたが、ちがうそうです。手術の様子を見ながら、手術の手順通りに医師に器具を渡すのだそうです。頭も心もくたくたになるそうです。

それでも家に帰ってくると、笑顔で私達に接してくれるそんな母に私はあこがれます。

日独同時交流受入

ティムが我が家へやってきて

〜忘れることのできない一週間〜

矢部 暁

【受入前】特に深くも考えず、安易な気持ちから引き受けた今回のホームステイであるが、受入日の七月二十七日が近づくとつれ不安が広がるばかり。言葉や食べ物の問題、そして何よりどんな青年なのか??

【第一日目】初めてみるドイツ団の人々。「たぶんあれがティムかな。でも写真と髪型が違うな」でも一番真面目そうな青年だね」と言うのが私たちの共通の感想であった。

やがてセレモニーが終わり私達ホストファミリーとご対面。「やっぱりあの青年がティムだ」片言のドイツ語・英語で自己紹介と私の家族を紹介した。

自宅について記念写真をとり、いよいよ家の中へ。ティムの部屋に案内した後、今日の夕食は「どんかつ」。口に合うかなと心配するも「グッド」を連発。ホッと一息。お疲れ様でした。

【第二日目】この頃になるとティムとも打ち解けてきた頃だった。妻の作る食事も残さず食べ、彼のホームページを見たり家族の写真をながら話したりと。一週間では物足りないなあ。

【第五日目】この日の夜は、次男の部活の仲間を呼んで総勢十数名での大運動会となった。最初はシャイな中学生達も徐々に打ち解け、紙風船バレーボールで最高に盛り上がった。送り迎えのお母さん達はティムとの記念撮影でキヤキヤ、最後はみんなで演奏会。盛りだくさんのパーティであった。

【第六日目】今日は各ホストファミリーのプログラムで過ごす日。ティムの妹ソニアのホストファミリーである佐藤さんと一緒に海へ。天気も上々、海はきれいでとても楽しい休日を通じた模様。良い思い出になったかなあ。

【最終日】最後の朝、我が家の前で記念撮影をしてから、集合場所の市体育館へ。私は残念ながらティムと最後の握手をして仕事へ。その朝、妻は泣き通しであった。さようなら、ティム・ノイベルト!! また会おう!!

【最終章】私達家族とドイツにいるティムとその家族ノイベルトさんとは今もメールでやり取りが続いています。今回のホームステイは私達家族にとつて本当に貴重な体験となるとともに、自宅でできる国際交流のすばらしさを体感できたプログラムでした。

最後に、このような機会を私達家族に与えてくださいました関係各位に感謝申し上げますとともに、このプログラムが今後よりよい形で継続していくことを祈り、筆を置きたいと思えます。ありがとうございました。

日独同時交流派遣

やなぎスポーツ少年団

遠藤 薫

私が小学六年生のとき、同時交流の受入をしたことがある。その頃からドイツに対する憧れが生まれて、いつか自分も行ってみたいという思いが心の中にあつた。初めて日本を離れての生活がうまくいくかどうか、不安もたくさんあつたけれど、三週間とても楽しく過ごすことが出来た。

この三週間の中で一番の思い出は、リンダウでの地方プログラムである。

リンダウはポードン湖という大きな湖に面していて、湖の向こうにはオーストリア、スイスが見え、とても過ごしやすところだった。私たちのグループは受入団体がずっと同じだったため、ホストファミリーとの交流も深めることが出来た。ファミリーはとても優しく、私達に対して家族同然のように接してくれて、いろいろなことを話してくれたり、食事のときは家族みんなで手を合わせて「いただきます」と言ったり、プレゼントした箸を使ったりしてくれて、ファミリーは日本のことにととても興味をもっているようで、ある日「日本の国歌はどういう意味なの?」と聞かれたときはどう説明したらいいか困ったけど、なんとか頑張つて説明して、意味が伝わったときはすごく嬉しかった。

またお母さんと一緒に夕食の支度をしたのもすごく楽しかった。日本では加工食品を使ったりして手軽に食事を作る傾向にあるが、ドイツでは心のこもった手作りの食事を大事にしているように思えた。

三週間過ごしてみて、言葉が通じることがとても大切だということを感じ知らされた。また日本を離れて生活してみても、自分の考え方も少し変わった気がする。

県スポーツ少年大会兼ジュニア・リーダースクールに参加して

源武館空手道スポーツ少年団 国井結華

私がこのジュニア・リーダースクールに来た理由は、「行って来い」と言われたからでしたが、このジュニア・リーダースクールでは、これから団にもどつてどんなことをするべきか学べたと思います。

私がこれから団に帰ってやりたいことは、まず、指導者の手伝いをしながら、小学生たちをまとめたり、どんなけいこをしたらよいかなどのアドバイスや、「こんなことを注意する」と上手くなるよ。」などと練習の時の注意を呼びかけたりしたいです。それに、これからは、ただの先輩ではなく、ジュニアリーダーという先輩になるので、

この三日間で学んだことを団の中で発信したいと思っています。私が団に帰ってからやらなければいけないことは、今からたくさんあると思います。その中の一つに、また新しいジュニアリーダーをつくるということもあると思います。団の小学生には、ぜひジュニア・リーダースクールに来て、たくさんの方のことを学びたいです。それは、きっと未来のスポーツ少年団のためにになると思っています。



県の動き

表彰

○社会体育功労者文部科学大臣表彰・山形県教育功労者表彰
原田 薫(鶴岡市)

○社会体育優良団体文部科学大臣表彰
上山トランポリンスポーツ少年団(上市市)
○日本スポーツ少年団顕彰受賞者(団)
最上町スポーツ少年団

有海長一(山形市)、竹田忠晃(川西町)、筒井昭治(松山町)

○山形県スポーツ少年団表彰受賞者
(優良団)尾花沢剣道スポーツ少年団

(尾花沢市)、中山ジュニア野球スポーツ少年団(中山町)、寒南ガッツスポーツ少年団(寒河江市)、山形ソフトテニスクラブスポーツ少年団(山形市)、金山スポーツ少年団(金山町)、漆山ソフトテニススポーツ少年団(南陽市)、わかきさバレーボールスポーツ少年団(飯豊町)、大山ミニバスケットボールスポーツ少年団(鶴岡市)、余目二小剣道スポーツ少年団(余目町)、櫛引東サッカースポーツ少年団(櫛引町)(功労者)奥山敏夫(河北町)、黒田彰夫(上市市)、吉田栄司(山形市)、高橋静雄(大石田町)、栗田一直(金山町)、堀 啓治(南陽市)、寒河江智陽夫(白鷹町)、斎藤 禎(余目町)、佐藤利浩(朝日村)、北村岩子(酒田市)

○認定育成員(少年スポーツ)
各級スポーツ少年団資格取得者

本年度は来年度資格制度が変わるため新規対象者については開催されませんでした。
菅井新一(川西町)、土屋栄治(南陽市)
○認定員養成講習会 七コース開催
参加者四九七名(内二〇七名認定)

各種事業

○シニア・リーダーズスクール
八月十二日～十六日静岡県
渡辺 瞳(寒河江市)、高橋美帆(鶴岡市)、吉田 豊(川西町)

○県スポーツ少年大会兼ジュニア・リーダーズスクール
八月六～八日朝日少年自然の家にて開催。三五名の団員をジュニアリーダーとして認定。少年大会の部五三名の団員、指導者二五名、リーダー会二二名参加。

○全国スポーツ少年大会
八月四～七日広島県
指導者：上野義弘(鶴岡市)、団員：大川奏(鶴岡市)、富樫大暁(同)、阿部杏佳(同)、木村友紀(同)、佐々木瑛(同)、伊藤良紘(同)、福原弘太(同)、高橋春奈(同)、井上京子(同)

○東北ブロックスポーツ少年大会
八月五～八日岩手県
指導者：阿蘇宣夫(鶴岡市)、団員：五十嵐大翔(鶴岡市)、五十嵐麻未(同)、佐藤宏樹(真室川町)、伊藤早也香(川西町)、新野理衣子(同)、島貫奈美(同)、小形奈美(同)、伊藤春香(同)、三上新一郎(長井市)、石山里美(尾花沢市)、片倉 唯(同)、菅藤紫織(同)、石川健太郎(同)、大山崇宏(同)、山口友裕(同)、加藤 開(同)、佐藤勇輝(同)

○日独同時交流受入
七月二十七～八月二日最上支部
○日独同時交流派遣
七月二十～八月十一日
遠藤 薫(寒河江市)

○県少年少女スポーツ交流大会
十月三～九日県内各地区二五会場
一五種目四、八〇五名参加
○指導者全国研究大会
六月二十七日東京 指導者一七名参加
○県指導者研修会兼育成母集団研修会
十一月二十日東根市 指導者、育成母集団関係者一一九名参加

編集後記

今年ほど本県スポーツ界の躍進が目立った年はなかったのではないだろうか。その中で本号で紹介した大神、高橋両選手の活躍は我々スポーツ少年団関係者に勇気と活力を与えてくれるものであります。また、全国スポーツ少年大会開催が正式に決定し、本県スポーツ少年団のさらなる発展の起爆剤となることを念じてやみません。昨今の子どもたちを取り巻く環境から今後スポーツ少年団に対する使命や期待はますます大きくなるものがあり、これに柔軟に対応すべく一致団結して取り組んでいかなければならないことを痛感した一年でもありました。最後に、原稿、写真等をお寄せいただいた方々に御礼と感謝を申し上げます。

編集委員

- | | |
|------|-------------|
| 委員長 | 梁瀬 吉弘 |
| 副委員長 | 渋谷 幸一 |
| 委員 | 齋藤 武司・馬場 高子 |
| | 阿部 美枝・藤山 一栄 |
| | 志村 忠夫・石川 武利 |
| | 菅 美的・丹 忠一 |

ワイドな補償でみんなの元気を応援します!

1,000万人の保険 スポーツ活動、文化活動、ボランティア活動などに最適な保険です。

5名以上の団体で
ご加入ください。

対象となる事故 ★グループ活動中の事故 ★往復中の事故

【保険期間】平成17年4月1日午前0時より翌年3月31日午後12時まで(申込受付は3月から)

— お問い合わせ —

〒990-2412 山形市松山2丁目11番30号 ☎023(642)8321

財団法人 **スポーツ安全協会山形県支部** (山形県体育協会内)